

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202528		
法人名	有限会社 ケア・アンド・サポート		
事業所名	グループホーム ゆうしゅん 1階		
所在地	長崎県佐世保市東浜町846-3		
自己評価作成日	平成21年11月4日	評価結果市町村受理日	平成22年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成21年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海、山の見える自然豊かな場所に位置し心安らぐ環境にある。
『入居者全員がしあわせに過ごせますように』との理念をもと利用者、職員が協力しあい和気藹々と生活している。日常生活面では、利用者の思いを汲み取り、利用者本人の希望ややりたい事が出来る“本人主体”の施設作りを目指している。又、趣味活動や学習療法など様々なレクリエーション活動で認知症進行防止やADLの低下防止を図ると共に、栄養バランスを考慮した献立で心身両面のサポートを実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の皆様がゆったりと楽しく過ごして頂きたい、利用者全員がしあわせに過ごせますようにとの施設長の思いで“ゆうしゅん”という名前になった。海が見える自然豊かな環境の中で、利用者一人一人に丁寧に目をむけた支援がなされている。利用者の表情はおだやかで、本人本位の支援を実践している職員の努力が見える。職員手作りの食事にも季節を感じられる工夫がなされている。施設長の管理者への信頼は厚く職員とのチームワークも取れている。何より介護計画の実施が毎日記録され、次の計画へ反映されており、計画に基づく支援の基本がしっかりと職員間で共有されて点は大変優れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス事業所としての理念について職員全体で繰り返し検討を行ってきた。利用者が、海が見える豊かな環境の下、のんびり、穏やかに安心して生活して頂けるように、ホーム独自の理念を掲げご支援させて頂いている。	”入居者全員がしあわせに過ごせますように”との理念のもと、職員は利用者の幸福感とは何かを常に考え意思を尊重し利用者主体で日々を過ごせる事を大切に支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域、町内の方々との親睦をより深める事ができるよう、地域活動の情報を得ながら、町内行事へは積極的に参加し交流を深めるよう努力している。	自治会に入会しており町内の行事には職員が参加し交流を深めている。回覧板は利用者が届けべらなで日光浴や散歩の折には近所の方との会話がある。美容室も近所を利用するなど地域とのふれあいを大切にしている。	認知症サポーター講習会場提供とホーム便りを回覧板に入れるなどして、地域住民に知らせ、一層の交流につなげてもらいたい
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門職としての知識、経験を活かし、地域(内外)の相談等には助言・アドバイスをを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議を開催し、参加者からも少しずつ意見がだされるようになってきている。職員全員が会議での意見を確認し課題への共有を図り、改善への取り組みを行っている。	運営推進会議は3ヶ月に1度だったが今後は奇数月に開催する予定である。参加者は規程どおりである。自治会長をはじめ意見交換は活発で事業所は課題の共有化と改善に向けて取り組んでいる。認知症サポーター講習会場への提案など前向きに検討している。	今後、2ヶ月に1度の定期的な運営推進会議開催で更にサービス向上に取り組むことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には、運営推進会議に参加してもらっている。必要時には電話や直接窓口へ出向き相談を行うなど、関係づくりに努めている。	運営推進会議に市職員も参加してアドバイスなどいただいている。又運営の面での相談や疑問についての質問など直接市の窓口に出向き相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の弊害を理解し、拘束をしないケアを前提に、お一人お一人の生活リズムに合わせた介護に心がけ、実践している。	玄関は日中は鍵を掛けず職員が見守りをして支援している。職員は身体拘束をしない支援に努めているが、職員の身体拘束の理解に差がある。	全職員に向けて身体拘束についての研修を行い、具体的な内容を把握し、身体拘束のない支援にむけての意識統一とケアに活かされる事に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者個々の人格や尊厳を重んじ、不適切なケア・虐待のない介護に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、事業や制度の理解を深める為に勉強会を実施した。制度が必要と思われる利用者については制度の説明を行うと共に、機関の紹介・利用に結びつけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者、ご家族を含めての説明を心掛け、事業所の方針や取り組み等について理解して頂き、同意を得るようにしている。また、契約内容の改訂時にも文書や口頭で都度説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には対話の機会を持ち、疑問点や要望事項について傾聴している。また、年1回家族会を開催し意見、苦情を聞く機会を設けている。ご家族からの意見や要望については職員会議で討議し対処している	職員は家族面会の際には会話の機会を多く持つよう心がけている。日頃の会話や家族会などでの意見・要望については職員間で話し合い、検討し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個々の意見を聞く機会には心がける様になっているが、運営に対する発展的な意見はない。	職員が運営に関して意見・要望を出しやすい場づくりができています。車椅子での洗面に適した洗面台の採用など職員の意見から実現した。職員の個人面接など随時行われ施設長とのコミュニケーションもとやすい状況を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護保険を中心とした報酬の中、給与水準は限界があり向上心が得られる環境ではない。労働時間は基準内に収めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修期間が一般的に数日にわたる事が多く、十分に働きながらトレーニングしていける環境を作ってあげていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会は定期的にいろいろな分野の方から協力を頂き行うようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の段階より面談の機会を設け相談等に応じ、安心してご利用頂けるよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いをしっかりと傾聴し受け止め、今後の対応のあり方や方針を納得して頂けるまで話し合い、安心してご利用いただけるように配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急に利用者本人、ご家族と話し合いの場を持ち、状況を確認し問題解決に向けての対策を検討したり、必要に応じては他サービスへ繋げるなど臨機応変に対応行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全職員が日頃より利用者は人生の先輩、また、親を看る感覚で接し、学ぶ姿勢を忘れず、常に感謝の心で接するよう心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には情報交換の場を持ち、利用者の日常の会話や状態を伝達し、ご家族の思いも汲み取りながら、共に支え合いご支援するよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の面会もあり、継続的な交流も出来られている。又、馴染みの美容室や商店からの訪問サービスを受けられるようご支援している。	なじみの人や商店など関係継続に努め、美容室や買物もこれまでと同じように利用できるよう職員は支援している。利用者の友達や近所の方も面会もあり、自宅へ帰宅外泊や親戚とのドライブなど利用者の幸福感につながるよう周囲の人たちが支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者一人ひとりの言動や行動を常に把握し、円滑な関係が築けるよう努めると共に、利用者同士がお互いに思いやり、助け合いながら生活出来るよう仲介役となっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も医療機関や他施設への面会やご家族と情報交換を行うなど、契約終了後も関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	対話の機会を多くもち、意向や要望を傾聴し、その思いに少しでも近づけるように努力している。また、日々の生活の中でキャッチした言動・行動・表情から本人の思いを汲み取り、より良い方向性へと導くように努めている	全職員が利用者がやりたい事がやれる施設づくりを目標としており、思いや意向の把握は利用者の表情や言葉から把握し実現できるよう支援している、発語困難な場合は表情や家族からの意向を聞くなどで対処している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族より情報収集を行い、生活スタイルや身体状況等の把握に努め、また、利用開始後の生活の中で本人との会話やご家族からの聞き取りで新たな情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや月1回の職員会議の席で、情報の伝達・交換を行い、個々のニーズに即したサービスの提供が出来るよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意向や要望を確認すると共に、アセスメント、情報収集を行い、本人主体の計画を作成している。また、月1回の職員会議でモニタリングを実施・協議し、必要に応じて変更、修正等を行っている。	毎月モニタリングを行い、計画を検討し修正を行っている。ケア会議は3ヶ月に一度開き、長期計画は6ヶ月、短期計画は3ヶ月で作成している。本人や家族の要望、主治医の意見を聞き取り計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況と個別の援助内容を個々に分けて記録している。身体状況や日々の暮らしの様子、エピソード等を記録し、状態の変化や本人の思いを把握し、実践に結び付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関の受診や個々の希望による外出付き添いなど、本人、ご家族の状況に応じ臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容室や商店などの訪問を依頼し、継続的なサービスが受けられるようにご支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望される医療機関への受診が出来るよう支援している。また、事業所の協力医療機関には、状況に応じ往診をして頂く等、適切に医療が受けられるようにしている。	これまでのかかりつけ医受診は家族の協力を得て受診しているが、都合によっては職員が付き添っている。受診結果は報告を受け、申し送りに記録している。協力医療機関との連携をとり緊急時の受診や往診など支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整え、定期的な訪問看護を受けている。看護師による日常の健康状態の把握、職員による情報伝達により適切な指示を受けている。突発的なケースについては、電話相談や臨時訪問を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会を行い状態の把握に努めると共に、医療機関、ご家族との情報交換及び意向の確認を行いながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、ご家族の意向を確認しながら、主治医、職員が今後の方向性について納得のいくまで話し合い、全ての関係者が同意の上で方針を決定し取り組んでいる。	重度化終末期に関してはこれまで行っていない。状況に合わせて利用者家族の意向を確認し、主治医や職員を含めて話し合いを行っているが、方針は明文化されていない。	重度化、終末期、看取りについての事業所の方針を明文化し文書にして契約時に説明し同意を得ることの検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で想定される事故について検討し、応急処置や急変時の対応法について学習してきたが、実際の場面で活かせる技術の取得には至らず、今後も定期的な訓練が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に関してはスプリンクラーを設置。月1回の割合で消防訓練を実施し、確実な誘導・避難が出来るように日頃より備えている。地域の人々への協力体制については自治会長へ相談し、協力が得られるようにしている。	火災避難訓練を夜間想定で月1回実施している。消防署の立会い、自治会長の参加があり、今後地域との連携が期待できる。スプリンクラーは既に設置しており、更に自動通報装置も設置するよう検討中である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳については常に意識付けを行い、本人のプライドを傷つける事が無いように、一人ひとりの人格を理解し、言葉かけや態度に留意し、又、押し付けのない介護を徹底している。	職員には守秘義務の誓約書を取っており、個人記録は所定の場所に保管管理している。職員は利用者の方々を敬い敬語で話し、傷つけないよう言葉かけなども気をつけている。	ホーム便りへの写真掲載については家族の同意を得る工夫が望まれる。また浴室の脱衣ではプライバシーの保護について検討を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が本音で意思を表示して頂けるよう、常日頃より対話の機会を設け信頼関係を築くよう努めている。何事も一つ一つ、その都度本人へ説明・確認を行い、本人の意思を尊重した支援を重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、日中の活動等を強要することはなく、本人主体・本人のペースで思い通りに生活して頂いている。本人がやりたい事が出来る環境づくりを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝のお化粧や身だしなみには気配りを行い、いつまでもその人らしさを保持して頂けるようにおしゃれ支援を心掛けている。理美容についても、馴染みの美容室へ出掛けられたり、訪問美容を受けられている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の関わり・対話の中で希望メニューを聞き、献立に組み込むようにしている。また、誕生日にはリクエスト食を提供するなど、行事に合わせた献立を工夫している。	季節を感じる職員手作りの献立で利用者は食事を楽しみにしている。食べたいものなど意見も取り入れ、利用者も職員と共に準備し食卓を囲み、一緒に片付けを行なっている。きざみ食なども対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚、野菜をバランスよく取り入れ、食事量や食事形態についても個々に合わせて提供している。摂取量は記録し、摂取状況の把握を行い栄養確保に努めている。水分も個々に準備するなど日頃より補給に配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、介助が必要な方については義歯洗浄や口腔内の確認・残渣物の除去など個々に応じた支援を行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の身体状況に応じた排泄支援を実施。各々の排泄パターンを把握し、随時の声かけや誘導を実施している。また、行動を素早くキャッチし失敗のない支援を心がけている。	排泄チェックを記録してパターンを把握し、個々に合わせさりげなく声かけし早めに誘導している。リハビリパンツが布パンツになった例もあり、排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄状況を記録し状態把握に努めている。日頃より便通促進の食材やメニューの工夫、個別の飲み物を提供し自然排便を促すよう配慮している。また、日中の運動を取り入れ便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の意向を確認した上で実施。基本的には、曜日設定にて対応中であるが、1回の入浴者を少数とし、ゆっくり入浴して頂いている。また、入浴日以外は足浴を実施している。	週2回を入浴日としているがそれ以外にも対応している。入浴前に浴室脱衣室など暖めておき、入浴は一人ずつとしている。朝風呂や同姓介助も希望にあわせて支援しており、季節の柚子湯、菖蒲湯も行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には1日の流れはあるが、就寝時間は思い思い、また、身体状況に応じ臥床時間を確保するなど、本人のペースで生活して頂いている。安眠確保への対応として、日中は活動的に過ごして頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の処方箋をファイリングし、処方変更等は伝達ノートで情報を共有し、職員一人ひとりが内容を確認出来るようにしている。又、内服薬の準備・与薬は数名の職員による再確認等を行い誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが得意分野で力を発揮して頂けるような環境づくりに努めている。洗濯物たたみ、掃除など自らの仕事として取り組まれている。また、季節の変わり目は、遠足等を実施しリフレッシュして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候等を勘案し状況に応じてホーム周辺の散歩、近所の商店への買物、社会見学など実施している。又、遠出の外出、買物依頼については、本人の意向を確認し、職員対応やご家族の協力を依頼するなど出来るだけ希望添った支援を心掛けています。	海が見えるベランダでの日光浴や玄関先での外気浴など少しでも外気に触れるよう支援している。利用者の希望に添うため家族との外出の希望などの場合は協力をお願いして実現している。車椅子の利用者も職員が押して散歩に出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度の少額を自己管理され、近隣のスーパー等へ買物に行く楽しみを持たれている方もある。自己管理分の金銭については、ご家族と相談し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や品物が届いた時、また、希望時には都度電話や手紙を出せる支援を行っている。利用者の中には、携帯電話を所持され自由にご家族や知人、友人と連絡を取られている方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の居間には季節に応じた職員手作りの装飾や生花を飾り、季節感を感じて頂くよう工夫を凝らしている。また、居間の窓からは海が眺められ居心地のよい空間となっている。	共用の居間は季節を感じる事ができる装飾が施しており、光が射し込み車椅子でも十分に動きやすい空間がある。換気が十分にできているため気になる臭気もなく、掃除が行き届いており、快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には椅子、玄関にはベランダを設置し、気分転換や外の景色を眺めたり、利用者同士でお喋りしたりと思い思いに過ごせる環境を整えている。また、居間にはソファを置き、食後はゆっくりくつろいで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、物品を気軽に持ち込んで頂き、居心地の良い空間、自分らしい生活の継続が出来られるよう支援している。また、思い出の写真などを飾られている。	利用者が使い慣れた家具が持ち込まれ、仏壇やテーブルなど自宅にいる時と変わらないように過ごせる配慮がされており、利用者は居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身心状況を常に把握し、状態に応じた物の配置・環境設定に努めている。状態の変化や環境面での不具合がみられた場合には、都度話し合いの場を持ち対策を講じている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202528
法人名	有限会社ケア・アンド・サポート
事業所名	グループホームゆうしゅん 2階
所在地	長崎県佐世保市東浜町845-3
自己評価作成日	平成11月18日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に日々見える位置に理念を掲示し、各職員は実現に向け実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を利用し少しずつ地域との交流を深めている。また避難訓練に参加いただくなど積極的に地域との交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの存在はある程度周知できているようだ。地域からの相談に対しては介護職としての知識、経験を生かした助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議の開催で地域の声に耳を傾けるよう努力している。また会議時活発に意見がでておりサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加していただき相談、助言をうけている。また、必要時は担当窓口へ出向き情報の共有や運営に関してのアドバイスをもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が禁止対象の具体的な行為まで把握しているとはいえないが、日常身体拘束のない支援に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが利用者個々の人権を尊重し虐待や拘束のない支援を徹底している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要としている利用者がいる場合は成年後見制度の説明や自治体や民間の機関を紹介している。また、職員も理解を深めるため勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、利用者、ご家族を含めわかりやすく丁寧な説明を心掛けて、また不安、疑問点は納得いただけるまで説明し、同意を得ている。要介護度によって変わる利用料の増額についてもその都度わかり易く説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱を設置し投稿できるようにしている。また、利用者、ご家族との対話を心掛けており遠慮なく意見や不満を話していただけるような雰囲気作りを行い、改善点は職員会議で討議し、改善に向け努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個々の意見を聞く機会は心がけているが運営に対する発展的な意見はない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護保険を中心とした、報酬の中給与水準は限界があり、向上心が得られる環境ではない。労働時間は出来る限り基準的に収めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修期間が一般的に数日にわたることが多く十分に働きながらトレーニングしていける環境を作ってあげれていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会は定期的にいろいろな分野の方から協力をしていただき行うようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期アセスメント段階で必要な情報を得て利用者個々との対話で少しずつ信頼関係を築き、心身状況の把握理解に努め傾聴の態度で接するよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談で悩み事やニーズを共有し、今後の対応や方針を納得していただくまで話し合いを行うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族との十分な話し合いを行った上でニーズに応じたサービスの提供に努めている。また、外部サービスも視野にilleて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に人生の先輩であるという敬意を払った上で共に支え学び合い助け合いの心で日常を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の些細な変化も見逃さず、ありのままをご家族に伝え職員はご家族の思いに寄添いながら情報の共有や支援のあり方、方向性を検討している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人、友人との交流支援を行うことで、馴染みの方との関係が途切れることのないよう個々に応じた支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間へ出て来られる機会を多くつくり、レクリエーション活動などで同じ行動を共にし、会話の仲介を行うことで利用者間のよりよい信頼関係づくりを支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰された方や他施設へ移動された方へも定期的な面会を行ったり、行事に招待したり遊びに来てもらう等継続的な付き合いができるように心がけている。また、家族からの相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族へ意向を尋ねると共に日々の会話や表情からとれるメッセージへも気を配り、その人らしく生活できられるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問である程度の情報収集を行い、利用開始後も本人ご家族から聞いたりしてこれまで歩んで来られた人生や生活歴の把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムや心身状態に応じ、個別的サービスの提供ができるよう常に現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、ご家族からの情報収集のほか、アセスメントで課題を的確に導きだしそのうえで合同カンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や食事量等、個別に記録している。またケアプランサービス実施表や実施状況をコメント用紙に残し職員間で情報共有を徹底している。また、個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、本人家族の状況や要望を軸に臨機応変に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に開催している運営推進会議に地域包括センター・民生委員・自治会長など参加していただき、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係ができています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医による訪問診療を受ける体制ができています。また、訪問時は相談やアドバイスを頂き、ご家族と情報を共有しながら健康管理を行い、また、突発的なケースに対しては通院介助や電話相談で対応しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護で日常の健康状態の把握が来ている。また、気軽に相談でき日々安心して生活できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の不安を少しでも取り除けるように定期的な面会を行っている。また、入院期間中も病院との情報交換を密に行い、万全の体制で退院できるようアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者本人、ご家族の意向を確認しながら主治医、職員と共に納得いくまで話し合いすべての関係者が納得、同意の上で方針を決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルはある。消防署の協力を得てAEDの使用方法や蘇生術の研修を実施したが、定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理者が消防計画書を作成し定期的に避難訓練を実施しているが、地域との連携はまだ不十分な所もあるため更に努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩であるとの思いをもって、尊敬や敬意を払った言葉を心掛けている。また、個人情報の取り扱いに関しては守秘義務を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の状態に応じた声かけや見守りを行い、本人の意思決定を尊重した支援を心がけ、また、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり些細なことでも本人が決める場面をつくれるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるができる限り、本人のペースや体調に合わせて支援を心掛けている。また、本人の意思で色々な活動ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人が着たい衣服、髪型等、自己決定を尊重した支援を心掛けている。また、希望時は美容院に行かれたり、日常的におしゃれを楽しむことができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望に添った献立づくりに心がけ、配膳や後片付けなど職員、利用者が協力して行い、また、嚥下困難な利用者に対しては刻み食にするなど、個々の状態に合わせた食事を提供できるよう努力している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した上で利用者個々の好みや体調に応じた食事量や食事形態の工夫をしている。また、摂取量のチェックを行い健康管理の判断材料にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者個人個人の口腔環境や能力に応じた声かけ、見守り、一部介助等、本人の力に応じた口腔ケアの支援を行っている。また、週に一回は義歯の消毒洗浄を行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力、オムツの使用は控え排泄の自立へ向けた支援および、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれに応じた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に食事は繊維質の多い食材を提供し運動やこまめな水分補給を行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、入浴時間の固定はしているが、本人、ご家族から要望があれば、その時の状況に合わせた対応ができるよう体制をとっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の心身状態に応じて、昼夜を問わずゆっくり休息がとれるように支援している。また、日中は適度なレクリエーション活動で夜間の安眠確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新、過去の処方箋をファイルに保管して、常に各職員が内容を把握できるようにしている。また、飲み忘れや誤薬などがないよう服薬の最終確認、準備段階で二重の確認体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や趣味など利用者それぞれの経験や得意分野を生かした共同生活が送れるよう支援している。また、レクリエーション活動を行うことで気分転換を図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添った外出支援はできてはいないが、レクリエーションの一環として玄関先での外気浴や散歩を行っている。また、事前の申し出があれば状況をみてできるだけ実現できるよう努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は利用者、ご家族のニーズに応じ臨機応変に対応し、また、外出の際は個々で支払いをして頂く等希望や能力に応じた支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の代筆を行い、積極的に外部との交流を行ったり、また、ご家族が遠方居られる方には時々電話をかけ利用者本人が近況報告でえられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節感や懐かしさをあしらった装飾を行い心和まれる環境をつくり、安心、安全に過ごせるよう不要な障害物は取り除くなど居心地よく生活でえられるよう努力している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、ソファやテーブルを設置しておりテレビや読書、会話などを楽しんだり利用者一人ひとりが思い思いに過ごせる空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人やご家族と相談しながら、使い慣れた家具やテーブルなどを持ち込んで頂き、入所後もできる限り自宅に近い環境で居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、手摺りやドア等の環境改良を行っている。利用者全員が安全に過ごし、より自立した生活が送れるよう工夫している。		